

「こんなときは神経内科に行こう！」

パーキンソン病と脳・神経の病気を知るセミナー in 福岡

パーキンソン病は、脳の神経伝達に欠かせない「ドパミン」という物質が不足することで、ふるえ、筋肉のこわばり、動作の緩慢、姿勢反射障害などを引き起こす病気ですが、ほかの病気でも良く似た症状を示すことがあり、な

かなかパーキンソン病と診断がつかないケースも見受けられます。このセミナーでは、パーキンソン病をはじめとする脳や神経の病気について、その専門家である神経内科のお医者さんが、皆さんにわかりやすく解説します。

日時：**7月5日(日)** 13:00～15:00

会場：**レソラNTT夢天神ホール** (西鉄福岡「天神」駅から徒歩2分)

共催：神経内科フォーラム グラクソ・スミスクライン株式会社

後援：一般社団法人 日本神経学会

**受講者募集
参加費無料!
先着300名様**

(注) 神経内科フォーラムは神経内科の認知・啓発活動を行う任意団体です。

神経内科では神経学的所見に基づいて、 神経や脳の病気を見つけ、治療します

神経内科医は筋肉から脳に至るまで、きわめて多岐にわたる疾患を、日々最新の知見を習得しつつ診療しています。

神経内科医は 「全身を診るお医者さん」

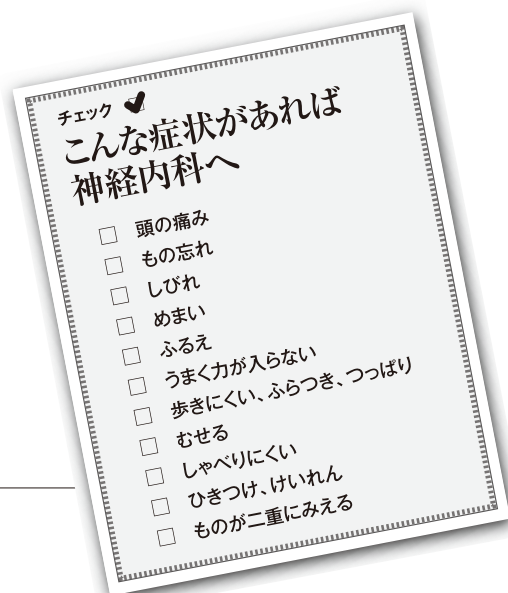
全身に張り巡らされた神経は、脳を使って思い出したり考えたりする認知機能から、筋肉を使って歩いたり走ったりする運動機能、視覚・聴覚・温度覚・痛覚・触覚など

の感覚器を用いた情報伝達機能、さらには呼吸・消化・循環・発汗など、意識せずに体が生命活動を続けるための自律神経にいたるまで、体全体がうまく調和し、機能するために休まなく働いています。神経内科医は、全身をコントロールする神経の不調を的確に診断する「全身を診るお医者さん」です。

頭痛から神経難病まで 最善の治療法を提示

神経内科では、頭痛、認知症、脳卒中など、比較的患者さんの多い病気から、患者さんの少ない神経難病までを扱います。患者さんをていねいに診察して病気の実態を把握し、さまざまな検査を加えて原因を突き止め、患者さん一人一人の生活に即した最善の治療法を提供するのが神経内科医です。

⇐ 1つでも当てはまる
症状が3ヶ月以上
続いたら、神経内科
にご相談ください。



◆プログラム

13:00～13:15 【基調講演】
神経内科とは (吉良 潤一先生)

13:15～13:55 【講演1】
パーキンソン病の病態と診断について (谷脇 考恭先生)

14:00～14:40 【講演2】
これからのパーキンソン病治療のありかた (坪井 義夫先生)

14:40～15:00
参加者からの事前質問に答えるコーナー

◆申し込み方法

お名前・ご住所・お電話番号・年齢・性別をご記入の上、FAXまたは郵送でお申し込みください。ホームページからもお申し込みいただけます。先着順で参加証を郵送しますのでお間違いのないようご記入ください。

ファックスの場合 FAX 03-5550-6550

郵 送 の 場 合 〒104-8176 東京都中央区銀座7-13-20

(株)日本経済社内

「こんなときは神経内科に行こう! 福岡セミナー」係宛

※個人情報厳重に管理し、本セミナーの案内状の発送以外の目的では使用いたしません。

ホームページ:「神経内科フォーラム」で検索してください。

http://www.neurology-forum.org/

【お問い合わせ先】 TEL 03-5550-6263 (平日10:00～16:00)

【締め切り】 6月26日必着 (先着順で定員になり次第締め切らせていただきます)

セミナー講師の先生にインタビュー

7月5日に開催する「こんなときは神経内科に行こう! パーキンソン病と脳神経の病気を知るセミナー in 福岡」講師の先生方にお話を聞きました。

◆神経内科医について

九州大学大学院医学研究院 神経内科学・教授 吉良 潤一先生

神経内科は脳・脊髄・末梢神経・筋肉などの病気の診断と治療を行います。神経内科の病気にはわかりにくい病気、難しい病気が多いので、患者さんにやさしい診療、丁寧な診察とわかりやすい説明を心がけています。私たち神経内科医は、最先端の神経内科の高度先進医療を全ての方に提供し、地域医療機関と連携して、患者さんとそのご家族が住み慣れた地域社会の中に帰っても、安心して生活できるようにサポートすることに尽力しております。



◆パーキンソン病とその診断について

久留米大学医学部内科学講座 呼吸器・神経・膠原病内科部門 教授 谷脇 考恭先生

パーキンソン病は手足のふるえ、筋肉のこわばり、動きの遅さ、バランスがとりづらいなどの運動症状のほかに、便秘、不眠、幻覚、うつなどの不調を伴う病気です。神経内科医は患者さんの症状を見て、さらにMRIやSPECTなど脳の画像診断も用いて、パーキンソン病の早期発見・治療に努めています。



◆パーキンソン病の治療について

福岡大学医学部・神経内科学教室 教授 坪井 義夫先生

パーキンソン病の治療で大切なことは、年齢に関係なく今までどおりの日常生活を送ることです。抗パーキンソン病薬を用いた薬物治療と、散歩とストレッチを中心とした運動療法を行い、治療薬の効果をできるだけ持続できるように主治医と相談しながら治療を進めて行きましょう。



グラクソ・スミスクライン株式会社

〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-6-15 GSKビル

http://glaxosmithkline.co.jp

